

安吾と画乱洞とその周辺



坂口安吾



山内画乱洞

今年生誕120年を迎える坂口安吾は、三好達治の誘いで昭和15年（1940）1月に小田原に転居しました。安吾が小田原に居を構えていたのは翌年7月までのわずか一年半ほどでしたが、その間に安吾はさまざまな人物と交流しました。特に文壇デビューのきっかけを作った牧野信一の幼馴染で、小田原の看板職人 山内画乱洞と親しく付き合い合いました。

図書館所蔵の山内画乱洞旧蔵資料などから、彼らとその周辺の作家の交流の様子をご紹介します。

2026

3/17火 — 5/24日

開館時間 10：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日 月曜日（休日の場合は翌平日）
入館料 大人250円、小中学生100円（団体割引有）

小田原文学館

〒250-0013 神奈川県小田原市南町2-3-4

問い合わせ：小田原市立中央図書館（0465-49-7800）



山内画乱洞の日記

小田原文学館（旧田中^{みつあき}光顕別邸）

本館は、現在の小田原市域で生まれた北村透谷ら、小田原で一時期を過ごした谷崎潤一郎や坂口安吾らの遺品、原稿・書簡等を展示しています。

別館の白秋童謡館は、大正8年から15年、当館に近い御花畑(おはなばた)の借家や天神山に初めて建てた自宅「木兎の家」「白秋山荘」で過ごし、多くの童謡等を創作した北原白秋を紹介しています。

本館と別館は、土佐藩出身で陸援隊の副長などを務め、明治維新後は宮内大臣、警視總監等の要職を歴任した田中光顕が別邸として建築したものです。瀟洒で斬新な意匠をもつ鉄筋コンクリート造3階建てのスペイン風洋館の本館は、昭和12年築です。三菱重工長崎造船所などの設計で知られる曾禰達蔵が最晩年に手掛けた建築で、国登録有形文化財に登録されているほか、小田原市の歴史的風致形成建造物に指定されています。

敷地内の尾崎一雄邸書斎は、市内下曾我にあった尾崎一雄の居宅「冬眠居」の一部を移築したもので、内部では尾崎遺愛の品を展示しています。

園内には、島崎藤村が揮毫し彫刻家 牧雅雄が設計した北村透谷顕彰碑や、北原白秋の赤い鳥小鳥童謡碑、北條秀司碑・藤田湘子句碑等が設置されています。



本館



別館 白秋童謡館



尾崎一雄邸書斎

- アクセス
- ・小田原駅東口から箱根方面行バス
H/T/J/Z/U線「箱根口」下車徒歩5分
 - ・小田原宿観光回遊バス「うめまる号」
「7.小田原文学館前」下車徒歩1分
(土日祝日のみ運行)
 - ・車で国道1号線「箱根口交差点」から
路地に入り220m右折後直進100m
(駐車場7台・無料)

